



TITLE:

雑報

AUTHOR(S):

CITATION:

雑報. 地球 1933, 20(2): 157-162

ISSUE DATE:

1933-08-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/184181>

RIGHT:

都市・地名考等を七章に分けて記述す。これはさきに「郷土の地理的研究法」として世に問ひし處を更に資料を添加せしもの。多くの例が東海をとつてゐるが他地方の者も暗示を充分に受ける事が出来る。獨特の境地に氣を吐いてゐる著者の大努力に敬意を表し、良著として推稱する。圖版多く、表裝典雅、發行は昭和七年九月。(尾山生)

○本邦を中心とせる石炭需給

東亞經濟調查局編

並發行 菊版三一〇頁 定價壹圓五拾錢

動力資源として重要な石炭が今日既に國內の需要を充し得ない。將來は佛領印度支那の無煙炭や濠洲の未開發炭田も發達するかもしれないが、本邦にとつて重要なのは矢張り滿洲國及び北支の石炭である。滿洲炭の本邦に對する價值問題は撫順炭輸入制限問題より見て立體的檢討が絶對必要となつた。

滿鐵が内地市場を攪亂するは不可であるが、内地市場が内地炭礦業者のカルテルで獨占される事は滿洲事變に際する國民の期待を裏切る。日滿統制經濟に對する第一の難問として此の石炭問題が起つた。本書の目的は之の解決策に充分な資料を供給するにあるのだが、我々には東亞に於ける商品としての石炭の百科全書として重寶な本である。例によつて周密な統計表や圖表類が頗る多い。經濟地理乃至商品學のよき資料として紹介する。(尾山生)

雜報

○廣東の水産

廣東料理といふ位であるが水産が多い土地である。汕頭沿海では海岸リヤス式で屈曲に富み、天然の良港があるし、水深三尋乃至四十八尋、海底砂泥で魚が多い南澳汕頭等が中心で漁船各二百餘隻あつて、鮫、勒魚鰻、比目魚、黃花魚、帶魚及鯷魚を主とする。つぎは海豐縣の遮浪島を中心とする漁區で金線魚、赤鯨、紅三魚、鰻魚、鰱魚、鯪魚、烏賊及び蝦がとれる、香港近海には珠江口一帶と外海とで魚の種類がちがい、珠江口では鰻魚、白翅、鰱、小蝦等がとれる。つぎは海南島一帶の沿岸で三亞と北黎が中心漁港で赤鯨、金糸魚、比目魚、鰻。鰻等の捕獲が多く漁船一千隻、年産千萬元に上る。つぎは陽江の水産で、沿海の住民は過半漁業に従事し年約五百萬元に達する、其他澳門の漁業も亦古來盛であり遠海漁業に従うものが多い。猶珠江では淡水養殖事業が盛で、大頭魚、鰱魚、鯪魚鰻魚を飼育しこれに従事する民衆亦多い。

○筆に用ひる毛

毛筆をつくるに適した獸毛は其性質が素直で、且つ尖が極めて細く、さうして柔かく、中程より順次剛く毛根に至つて極めて勁く彈力のあるものでなくてはならぬ、そこで同じ獸類の毛といつても腿下、内腿、下腹等の部

分のものが優良で、脊、脇腹、胸、尾等の外物にふれやすい部分に生じたものは荒く且つ剛でよくない。一般に羊毛を除いて筆の毛は日本産のものがよい、今筆に用ひらるゝ毛の二三についてのべる。

第一は兎毛 兎の毛は秦の蒙恬が中山の兎毛を以て筆をつくつたといはるゝ程に古い、中山は今の江寧府の溧水附近の秃げ山の兎であるが、肥大であつて毛が長いといはれる、こゝの兎毫は今も良質で一本三圓にもなる、正倉院御藏中の古文書に寫經生は兎毫を用ひたとあつて、その一本の價が、米一斗に價したとある、しかし現に上海邊で兎毫とか紫毫とかいふ高價のものは殆ど廢物であるらしい。

つぎに羊毛は現在支那で最も廣く用ひられるが、その流行は董其昌に始まり、清朝一代の風をなした、浙江の嘉興秀水二縣の産毛が良品で、嘉善、海鹽などいふ上海附近のデルタの羊が佳い、羊の毛は黒汁の含みがよく、毛に集合力があつて命が長い、羊の内腿や下腹の毛で最も柔いものを最上品とする、ついで脊筋や脇の毛は並品であつて安筆とか刷毛に用ひる、腿下や胸や腹の長い毛は大筆に適する。

鹿毛は兎毛と共に用ひらるゝこと最も古く、我國では奈良朝以後一般に使はれた、首のフリ毛、脊のナカ毛長く共に大筆に用ひ、胸のアヲミ毛細く素直にて小筆によいとされてゐる、夏毛は諸筆に適し冬毛は書に適する、アヲミとナカ毛でつくつた最良の筆は兎毛筆よりも價が高く時に兎筆の四倍に

も達した。狸毛も亦脊や脇腹や頭部腹部のものが用に供され白色を最上とする。馬毛は支那ではあまり多く用ひぬが、我國では可成多くを用ひる、タテガミをのぞいて、全部の毛が使用に堪へ毛質は素直で又彈力もある、其形は針の如く癖がない、故に我國では馬毛を他の毛に混用するのである、筆匠はこれを烏毛といひ、馬毛とはいはぬ、烏毛のうち薄色といふ内腿や、下腹の毛は殊に良品で筆の主要部になる。

猫毛、俗に玉毛といつて馬毛同様我國のみで使用される、小筆に適する、狼毫といふのは狼ではなく實は鼯の毛であるが馬毛に似て彈力がある、毛もよいが何分毛が短いか小筆しか出来ない、貂鼠の毛もよろしいが尾の部分を用ひる、狼毫に似てやゝ柔かい、栗鼠の毛と尾を用ひるが我國では筆でなくて化粧毛に用ひる、この他鼠鬚筆、虎毛、虎僕、狸々、猪毛などの文字があるけれども實用の度は極めて僅である。

(楠瀬氏談)

○上海の卷烟草

烟草企業は目下上海の一大工業で、國家の財源、工人の生計に關する重大な企業であるが、支那人の之に關與する數十家資本總額千五百五十萬元である、之に對し英美烟草公司是一家にして資本三千六百萬磅を有するから、支那人の總計の二十倍に達するために到底群小支那人工業家は之に競争が出来ない。

支那人の工業として使用する卷烟草機械は米國製最も多く二六〇臺、支那國產之について百四十臺に達するが舊式のも

のは能率が低い、一時間製造高一萬五千本乃至五萬本に達する、原料は多く米國より輸入される、山東、河南及安徽の産は色澤米國産に及ばず、僅に中下等品をつくる、卷烟草紙は全部佛國、伊太利、日本、米國から輸入され、日貨は目下抵制されてゐる、香料を用ゆることは卷烟草製造上必須の行程で、普通ラム酒、甘油糖、波羅精等を加へる、食鹽、香豆、甘草又は蜂蜜を用ふる場合もある、ラム酒は外貨もあるが、多く支那産を用ひ毎ガロン一元、波羅精は米國製で每瓶九元乃至十元、糖の効力うすき故に目下獨逸の糖精(サツカリヤ?)を用ひる、其價一封度に付七兩乃至八兩半、甘油は石鹼製造の副産物であるが、これは全部外貨である、上海の烟草工場で十分の九までは米國葉烟草を用ひる、支那産は種子不良で植種舊法に従ひ又焙燥を研究しないから到底米國品の敵でない、しかし民國二年英米烟草會社が米國より種子を入れて、河北、山東、安徽に移植してから所謂黃葉烟草の産が増加し其後廣東三省でもこれをつくるに至つた、其產出合計、一億二千萬擔である、さうした次第で支那人の工場は多く中下等品をつくり、上等品は英米公司の一手販賣である、現在の形勢では到底支那國産を以て之に對抗することは不可能である。

○鶏卵の新しい貯藏法

生たての卵が二酸化炭素を發散することは已に知られてゐることで、其量は始めは多く後急に減少する、しかし四十日後でも尙此放散瓦斯の計量が出

来る、何故にこの瓦斯が出るかといふに、それは卵の呼吸作用によることであらうとは誰しも考へる點であるが、事實は未解決である、何となればこの放散する瓦斯の總量は卵の實質の單なる分解を基礎として説明せんには、餘りに分量が多いからである、そこで兎に角適當の壓力の下に二酸化炭素瓦斯を以て卵を包むておくと、そのために卵そのものからの瓦斯の放散を防止するに十分であるばかりでなく、同時に卵の內的生長力を抑止することが出来て或工夫を加へると長い間をへても卵は生たてと同様の姿を維持しうるといふことを考へた、從來小規模に行つたが、今度チュエルムスフォードの英國産鶏卵荷造所で四百五十萬箇の鶏卵を一箱二十五萬個宛總計十九個の密閉籠に收めて貯藏することに成功した、其方法は蜜蠟を引いた淺い容器に卵を排列し之を箱に入れて蠟にて密閉し、次に中の空氣を排除して其代りに二酸化炭素と窒素瓦斯の混合瓦斯を置換へたので、箱内の氣壓は、普通の一氣壓よりも稍々高くしたのである、その結果、久しくして取り出した時に生たての卵と同様なまゝに用ひられるのである、我國の三重や愛知の農家で鶏卵が大に盛んになつた結果からした貯藏方法も更らに研究されるべき時が來たといつてよいと考へる。

○米國の對日投資及貿易額

一、米國人の對日投資總額四六六、〇〇〇、〇〇〇弗
內譯 教會、慈善事業 八、〇〇〇、〇〇〇

商業投資

四五八、〇〇〇、〇〇〇

直接實業投資

六二、〇〇〇、〇〇〇

日本政府國債投資

一六一、〇〇〇、〇〇〇

半官半民會社の投資

五四、〇〇〇、〇〇〇

市債への投資

四二、〇〇〇、〇〇〇

私設會社への投資

一三九、〇〇〇、〇〇〇

二、日米國貿易額

一九三一年

一九三二年

イ、自日本輸入總額

三、〇〇〇、〇〇〇

三、〇〇〇、〇〇〇

生糸

三、〇〇〇、〇〇〇

三、〇〇〇、〇〇〇

絹織物

三、〇〇〇、〇〇〇

三、〇〇〇、〇〇〇

蟹肉

三、〇〇〇、〇〇〇

三、〇〇〇、〇〇〇

茶

三、〇〇〇、〇〇〇

三、〇〇〇、〇〇〇

陶磁器

一、〇〇〇、〇〇〇

一、〇〇〇、〇〇〇

樟腦

一、〇〇〇、〇〇〇

一、〇〇〇、〇〇〇

口對日輸出總額

一、〇〇〇、〇〇〇

一、〇〇〇、〇〇〇

棉花

一、〇〇〇、〇〇〇

一、〇〇〇、〇〇〇

鐵鋼

一、〇〇〇、〇〇〇

一、〇〇〇、〇〇〇

石油

一、〇〇〇、〇〇〇

一、〇〇〇、〇〇〇

木材

一、〇〇〇、〇〇〇

一、〇〇〇、〇〇〇

機械類

一、〇〇〇、〇〇〇

一、〇〇〇、〇〇〇

電氣器械具

一、〇〇〇、〇〇〇

一、〇〇〇、〇〇〇

自動車部分品

一、〇〇〇、〇〇〇

一、〇〇〇、〇〇〇

因に日本は米國總貿易中、輸出にて英國、カナダに次で第三

位を占め、輸入はカナダについて第二位を占めてゐる。

○蘭領印度の鑛產

東印度の鑛產の世界產額に對して占

むる位置は夫々錫二〇%石油二、五%金〇、五%銀〇、八%石炭〇、一%にして錫を除きては取立て云ふ程のものではないが、之を國內的に見ると何れも重要な鑛業である。

錫は一七一一年サンタン領當時にバンカ島にて採取が始められたが一八二二年以後二六年迄一時英領となつてゐたことがある、當時から支那人の探掘であつたが、一八五三年技師アツカリーリシガが掘鑛機を用ひはじめてバンカ島の有望なところが分明し、今も當時のまゝの器械が用ひられてゐる、バンカの錫が二世紀前に發見されてから今日迄の產額累計約九百萬キンタル(一キンタルは百斤)と推算され一九〇〇年以後其四割八分を出してゐる、現在でも產額の減少はない、次に錫產地としてピリトン島が重要である、一八五一年以後の發見で、一九〇〇年以來二百萬キンタルを產出し埋藏の見込百十八萬キンタルと稱せらる、一八九一年以來シンケツプのコンセツションから少しく產出があり、リオのクन्दル及カリム島のコンセツションなどは產出少く休業してゐる。

石油は產出は少い、けれども和蘭領の輸出品としては重要であつて、一八八〇年代の末に發見され技師アー・ストープの努力によつて始められた、ボルネオは原油全產額の三分二を産し、スマトラは四分一を產出する、爪哇及セラムから少量を出す、當地の石油はベシジンが多い、其以外のものは米

國品よりも悪い、けれども軍艦の燃料として特に優れてゐる長所があるから、近年政事問題の中心となつてゐる、金は古來瓜哇スマトラに産し今世紀になつて幾多の産金會社が出来たけれども多くは失敗した、タンバン・サワに於ける政府の金探掘事業の如きも最初の希望を充たす迄には發達しなかつた石炭は第三紀のもので、コークスにならない、又其産地が奥地にあるために運搬に不利であるから思ふやうに發達しない、現在稼行のものオンピリン及アキト・アサム二箇所政府炭坑及サマリンド、ペロー及びバリト川上流二三あるに過ぎない。

其他ヨジウムは石油に伴ふ水脈から採取し年産額二百萬盾に達する、マンガンは中央瓜哇に産し年額百萬盾、硫黄も火山地に出てゐるが其量多からず、アスファルトもプウトンから相當とれる、次に未だ鐵業化しないものでセレベス、ボルネオ及ランボンに鐵鐵の産出あり、粘土及ボウキサイトなど注意すべきものゝ一である。

○東三省の毛皮と藥用獸類

東三省の森林は約二十七萬五千方杆の廣きに達し、獸皮の産が多い。

一、貂は小興安吉林に産する、三姓の産が良い、一枚の價は大洋三十元乃至百五十元、年産二千枚位。

二、灰鼠は北滿栗鼠ともいふ、東三省のものは歐洲産よりも優良で一枚三元、産額百萬枚。

三、旱獭(タラバカン)はホロンバイルに出る、一枚一元五角

米國向であつて年産五十萬枚。

四、狐は一帯に産し褐色、火色、十字形、黄色、灰色、白色等の色にわかれ、火色、十字形を最良とし一枚百元に達する、黄色、灰色は一枚五十元乃至七十五元、年産一萬二千枚、黄狐はホロンバイル、大興安以西に産し形は狐よりやゝ小、灰色で毛短く一枚八元乃至十五元、六七千枚を産する。

五、貉(浣熊)は冬帽に用ふ大洋二十五元乃至四十元、年産額二萬枚。

六、獾は河谷からとる、一枚五十元乃至百元、六千枚。

七、金鼠は吉林産を良とし、尾毛は筆となる、一枚二元乃至五元、二萬五千枚。

八、黄鼠及貂鼠は各七千枚。

九、狼はホロンバイルに産し一枚二十五元乃至五十元、年産八百五十枚。

一〇、豺狼は毛氈にする、一枚四十元乃至八十元、千六百枚。

一一、大山猫は短上衣とする、一枚六十元、年額千枚。

一二、豹は年に百枚、野猫は五千枚、沙猫は千五百枚に達する

一三、猫は白色を良とし輸出するも年二萬枚。

一四、犬皮はチ、ハルの白犬を良とし年に六十萬枚。

一五、猪は吉林省林中に居る、肉は美味、皮は堅い、年に二萬四位とれる。

一六、馬鹿は森林中にすみ肉は美味、毎年二千五百四位をとる、僻地の密林に麝子といふのもある。

一七、麋鹿は大興安に居る、肉は美味、毎年八百匹位はとれる
一八、熊は肉は堅いが滋養にとみ、足掌は美味である、毎年千匹位とれる。

一九、薬用の第一は虎である、頭部に王字又は大字形あるものが最貴ばれる、骨、血、膽、生殖器、眼、爪、心臓、肝臓等全身すべて貴重薬である、價は一定せず、毎年五十匹位とれる。

二〇、馬鹿の角は鹿茸といひ貴重薬である、生初の柔い角皮を粉末とする、各種の慢性病に奇効あり、新取の鹿茸は一斤二十五元乃至七十五元、久藏乾燥せるものは價格之に十倍する、年産額二千七百個、總價額三十萬元に上る、雄の生殖器は興奮劑となる、一ケの價二百元位、四月中旬雌の腹子(鹿胎)は雌産の薬材とする、一ケ一、二百元、この方も年に三十萬元となる。

二一、斑鹿の鹿茸は馬鹿よりも二倍するが数が少い。

二二、香樟は麝香を腹にもつてゐる、一ケ十五元乃至二十元、年三千四百箇。

二三、熊の膽は傷を癒し、精氣を補ひ、油は慢性病及肺病に奇効あり、膽一斤の價大洋五十元。

之を要するに東三省食用獸類の年捕獲は十五萬五千匹、百萬元に達し、薬用獸類の捕獲数は約一萬匹で價格同じく百萬元に上る。

全獸類の年捕獲總数は三百萬匹、毛皮總計千二百萬元にして一枚の標準十元である、カナダの獸皮は大洋七十五元、ソ

ヴィエツトは四十四元に比して甚だしく低廉であるが、これは毛皮の種類と品質の粗悪なる結果である。

○イタリーの栽桑方法改善

一九三二年度のイタリ

一の養蠶家は、日本と同様、甚だ不利で、繭値は一疋に二利餘でうつたものさへあつた。

イタリーでは二ヘクタールの土地で蠶種一オンス半を掃立つるだけの桑がとれる、この際にその收購高は約九十疋あつたと(實際は平均五十疋内外)しても、一疋を三利五十仙で賣つて三百十五利の賣上高しかない、そのうちから、蠶種代、消毒費、器具代、手間賃等百七十利を差引すると、純利益百四十五利にすぎない、伊太利の農園では桑を喬木仕立としてゐるから、その畑の間に農作物をつくるために、桑葉が不作する結果である、もし桑をつくらないで小麦をつくれれば一ヘクタールで二十二キントナル半、玉蜀黍ならば二十七キントナル半、秣ならば五十キントナルを收穫しうるのであるが、桑の木の蔭になるために、その三分一を失ふから、五百二十五利の價格を失ふといふ計算になる、桑を作つて却て損が大きいのである、繭價が下つたために養蠶家のうけた損害は日本だけではなくつた。

そこで伊太利ではこの喬木仕立をやめて三十種乃至五十種の低桑栽培にして、せめて一ヘクタールの桑で蠶一オンスを飼うやうにしたといふ考が出来、伊太利蠶業協會では伊太利北部及中部に於て、栽桑競進會を催し、低桑仕立の畑を持つ農民に賞金を與へたといふことであつた。